

紫野むらさきの

〔大宮の北方の惣号そうがうなり、七野ななの其一野いちのなり、延暦十四年十月天子こゝに遊獵いうれふし給ふ〕

後拾遺

白妙のとよみてぐらをとりもちて祝ぞ初るむらさきの野に

長能

続古

ねられずや妻を恋ふらん卜野しめゆき紫野行鹿ぞ鳴なる

太上天皇